

JICA中小企業・SDGsビジネス 支援事業の採択案件決定!

株式会社エコシステム（石川県・能美市）は、JICA中小企業・SDGsビジネス支援事業の2020年度第二回公示に応募提案をされ、採択されました。南米ボリビア国サンタクルス県において建設廃棄物（廃レンガ等）を原料とした透水・保水性舗装材の製造・供給・施工事業に関する基礎調査を行います。道路インフラの整備が十分ではないボリビア国において、本事業を通じて、安価かつ高性能な舗装材の提供によるインフラ整備、建設廃棄物の削減と快適な地域環境の実現への貢献を目指します。

なお、コロナ禍において、本案件は現地への渡航調査を行わず、日本からの遠隔調査で実施する予定です。



▼ 貢献を目指すSDGsのターゲット ▼



JICA北陸's World News Letter

2021.夏号 / Summer

JICA事業をSDGsの17のゴールに合わせてご紹介します!

コロナ禍により派遣を見合わせていたJICA海外協力隊が、昨年11月から段階的に渡航再開しています（18か国/2021年5月25日現在）。今回は北陸で再派遣第1号の青木さんに話を伺います。

青木 彰吾さん ジンバブエでの JICA海外協力隊 活動報告



青木さんの活動内容

福井県鯖江市出身

派遣国：ジンバブエ 職種：野球

2019年の12月から青年海外協力隊員としてジンバブエに赴任。同国の野球協会に所属し、主にナショナルチームの育成、学校巡回によるジンバブエ全域の野球の普及活動等に従事。2020年3月に新型コロナウイルスの影響により一時帰国し2021年3月に同国に再赴任。現在は野球指導者の育成を中心に、野球の裾野拡大に取り組んでいる。

新型コロナウイルスにより大会は中止に…ジンバブエ代表が国際大会に出場する機会は非常に少ないため、がっかりする選手たちの顔を今でも覚えています。練習を通じて選手との絆も強まり、チームの気持ちが一つになった矢先の帰国は本当に残念でしたが、日本に一時帰国をしても、ジンバブエとつながって自分に何が出来るか考えようと思いました。

JICA北陸の 新任スタッフの紹介

新所長着任のご挨拶

米山 芳春 JICA北陸センター所長



ラオスから帰国し、菊地前所長の後任として4月に着任しました。内陸国ラオスに4年弱勤務していましたので、北陸の海の幸に日々感動しております。北陸での勤務・生活は初めてで、まだ地名も読み間違える毎日ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

地方創生や外国人受入、多文化共生といった地方が抱える課題も、JICAの地方センターが取り組むべき重要なテーマになってきています。コロナ禍で先行きが見えない時代ですが、北陸3県の多くのパートナーと協力して、北陸地域が元気になるよう微力ながら頑張りたいと思います。そして、北陸の魅力も、世界へ発信していきましょう!



ボランティア・開発支援事業担当 八田 裕司

2021年3月より国内協力員として働いています八田裕司です。青年海外協力隊の経験を活かし、新しいことに積極的にチャレンジしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



福井県 国際協力推進員 佐藤 山斗

こんにちは！今年の3月からJICA北陸の福井デスクを担当しております佐藤山斗と申します。JICA海外協力隊（派遣国：ブラジル、職種：野球）の経験を生かして、福井県を盛り上げていきたいと思っています！



広報担当 押方 有希子

3月末より広報担当として勤務しています。JICA北陸を、より多くの方々に知っていただけるようPRしていきます！FBにいいね！もよろしくお願いいたします^ ^/



現地の子供たちに寄贈品を提供する様子

活動先の子供たちに野球を指導している様子

今後の隊員活動にむけた抱負をどうぞ!

新型コロナウイルスのスポーツ活動への影響は大きく、ジンバブエでは、ある程度の人数が集まって行うスポーツには大きな制限を設けています。再赴任後、制限は徐々に緩和されていますが、少なからず隊員活動にも支障はあり、所属する野球協会の運営は難しく、課題は山積みです。活動期間は2021年11月末までですが、それまで焦らず一つずつ課題に向き合い改善していきます。一時帰国していた私を待っていて、満面の笑みで出迎えてくれた仲間や子供たちのためにも、改めて現地の人との信頼関係を構築し、協力し合えるよう努力していきたいです。なによりも「感謝」の気持ちを忘れず、一球入魂で頑張ります!!!

再派遣が決まった時は再赴任の見通しが立たず、志半ばにして諦めざるを得ない同士たちも多数いる中、その気持ちを背負ってまた赴任できることに感謝の気持ちでいっぱいでした。

